

## 湖南省における家庭教育支援の取組

湖南省 本事業開始年度 平成23年度		家庭教育支援員や支援チームに関すること	
活動内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 地域人材の養成</li> <li>■ 家庭教育支援体制の構築</li> <li>■ 家庭教育を支援する取組</li> <li>■ 訪問型家庭教育支援活動の実施</li> </ul>		A:家庭教育支援チーム数 (10)チーム B:家庭教育支援員数 (のべ16)人 C:家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数 (10)か所 D:前項(C)の配置場所名 (石部小、三雲小、三雲東小、岩根小、菩提寺小、三雲東小、菩提寺北小、下田小、甲西中、甲西北中)	
年間活動日数(のべ)	933日		

### ■ 家庭教育を取り巻く現状

核家族化や地域社会のつながりの希薄化により、子育ての悩みや不安を抱えたまま孤立してしまう保護者が増えている。また、ひとり親家庭の増加や貧困など家庭教育の充実に難しさのある中で、学校生活に適應できない子どもが増えている。このように保護者の困り感が子どもたちに影響している現状がある。

### ■ 家庭教育支援で目指す姿(課題解決のために…)

子育ての支援を必要とする保護者が、地域をはじめとした様々な人につながることで、子育てに対する不安感を和らげ、子どもの育ちを豊かにすることができるような体制づくりが求められる。家庭教育の自主性を尊重しつつ、不安を抱える保護者への情報提供や学習の機会の設定などのアプローチ、さらに助けを求めることが難しい保護者へ支援を届けるアウトリーチの取組が期待される。

### ■ 本年度の活動

#### (1)家庭教育支援員連絡会議の開催

8月28日(木)県家庭教育支援アドバイザー(SSWSV)上村氏、県生涯学習課桂氏を招いて開催。関係各校から家庭教育支援員、管理職等が参加して、取組概要の報告、情報交換を行った。両氏の講話から、参加者一同学びを深め、明日から「またやってみよう」という元気をいただいた。

#### (2)中学校区別運営会議の開催

4中学校区別に、地域学校協働活動推進員、家庭教育支援員、管理職、市教委担当者が出席し、今年度取り組んできたことの成果と課題を出し合った。

#### (3)家庭教育支援チームによる活動

本市では8小学校と2中学校10チームに延べ16名の家庭教育支援員が携わっている。各校の状況に応じて「訪問型支援」や保護者が気軽に集まり、つながるきっかけをつくる「子育てサロン」、不安を抱える保護者の学びの場となる「子育て講演会」の開催等、工夫を凝らした活動を展開している。

### ■ 訪問型家庭教育支援の実践内容

「訪問型支援」に積極的に取り組んでいるチームでは以下のような内容で実践を進めている。

- 子どもや保護者と丁寧に信頼関係を築いたスタッフが担当の児童・生徒を訪宅。
- 個々の状況に応じたアプローチを継続的に進める。
- ケース会議に参加し、学校関係者と情報を共有。

### ■ 本年度の成果

8月に行った連絡会議では、上村氏よりすべての家庭教育支援員にエールをいただくことができ、次につながる充実した研修の機会となった。また、家庭教育支援員が一堂に会することで、互いの取組に学びあい、小中学校間の引継ぎなど中学校区で連携した取組を進めることへの共通認識をもてた。さらに、管理職や担任等との綿密な情報交換、校内の支援委員会等への参加など、家庭教育支援を進めるうえで学校との連携が重要であることを再認識することができた。このような成果は、校区別の地域コーディネーター連絡会議でも報告され、この事業に新たに取組みたいという学校が増えている。

### ■ 今後の課題

本市では、各校の児童生徒、家庭の状況に応じて、それぞれが独自に取組を工夫している。よりよいチームを目指して家庭教育支援員と学校、関係機関との緻密な情報共有、連携が必要であり、それぞれの役割を明確にしたうえで、子どもたちや保護者の支援にあたるのが大切である。そのためにも、各校間での情報や実践交流の機会を設け、連携を深めることで、各校の取組の活性化を図りたい。

報告書記入者 ( 学校教育課・教育研究所 所長 )

## みとっこ広場 & ほっこりお茶会 ポコ ア ポコ ～すこしずつ、でも確実に、前へ～

### ■ 活動の具体的内容

#### ○訪問型家庭教育支援の実践等

保護者とLINEで日ごろの様子を聞いたりお宅へ伺ったりしている。子どもについての考えや保護者の思いを聴き、学校やSSWとの橋渡しを行っている。その時にさりげなく子どもの顔を見て直接話をし、つながりをもつようになっている。

#### ○地域人材の養成等

放課後の居場所みとっこ広場では参加している地域の方と保護者やスタッフが、ボードゲームや折り紙、クッキングなどを行いながら子どもとの関わり方を学んでいる。

#### ○家庭教育支援チームの設置、実践等

設置はまだしていないが、みとっこ広場には子ども家庭総合センターのコンシェルジュや地区の保健師が来てくれている。社会福祉法人が運営している施設には、未就園の親子が集う場があり、小さい頃から保護者と顔見知りになれるので学童期へのつながりももちやすい。

#### ○学習講座・行事の実施等

学校保健委員会と共同で滋賀県家庭教育支援アドバイザー(SSWSV)上村氏を講師にお招きし、「子どもの心のサインと対応について」の研修会を開催し、子どもを取り巻く環境を知り子どもの心の健康について親として、地域としてできることを考えた。また思春期の子どもへの寄り添い方について学ぶ機会となった。みとっこ広場ではSSWと子どもの人権についてのお話会、おもちゃつき、ピザづくりを計画、実践した。

#### ○連絡会議・ケース会議の設置、運営等

SSWや児童生徒支援の先生との連絡、学校の「子どもを語る会」に参加し情報を共有している。

#### ○保護者に対する情報提供等

月に一度ボランティアルームでお茶会ポコアポコを行い、参加した保護者へ学校の行事の内容、子どもの様子や学校外の居場所や不登校について学ぶ場(講演会、研修)について情報提供をしている。また地域と協力し学区の取組として「かたる一む」を開催し、地域の子どもの関わる方、学校に行きづらい子ども、保護者が気軽に交流できる場をつくっている。



【 みとっこ広場 】

### ■ 実施に当たっての工夫

○訪問型では保護者に連絡をとるタイミングの間隔があかないようにするとともに、連絡をもらったときの対応では、保護者が話をしやすいように気をつけている。対応している児童のクラスに読み聞かせに行っていることから、そこで読んだ本をその児童にも手渡してクラスとのつながりをもつようになっている。

○みとっこ広場では子どもが落ち着いてすごせるスペースや自分で自由に考えて遊べるような環境を整えている。スタッフや参加している大人が何かしてあげるのではなく子どもと同じ目線で一緒にすごすことを大事にしている。

○お茶会ポコアポコの名前の由来はポルトガル語で「少しずつ、でも確実に進む」という意味。水戸小は外国にルーツのある児童も多いので外国籍の保護者も参加しやすくなればという意味も込めている。



【 子どもの心のサイン 講演会 】

### ■ 事業の成果

○家庭教育支援員が間に入りつながることで、保護者が先生には言えない思いや、先生が保護者に直接聞きにくいことを聞くことができています。学校に行きづらい子が行事の少し前に連絡をとったことで、行事に参加できたこともあった。また、保護者が授業に参加して他の子どもたちの様子を見て、家庭でその様子を伝えてもらうことにより学級とのつながりをもつことができた。

○SSWの存在を知っていても保護者から連絡をとりづらいという声があったので、SSWにお茶会ポコアポコに来てもらい、保護者と自然とつながれるよう取り組んだ。リラックスして保護者の思いを話してもらえ、子どもへの対応を悩んでおられた方がSSWからその方法を聞いて安心した様子だった。SSWが知らない学校の様子(子どもからの情報)を教えてください、有意義な場だった。

### ■ 事業実施上の課題

○悩んでいる保護者とつながることができれば、いろいろな情報を提供し前向きなアプローチができるが、子どもが問題を抱えていても保護者が困っていないケースや子どもに関心がないケースの対応が難しい。保護者との連絡について先生と共有できていないことがあり、ひとつの行動が保護者、子どもとの信頼関係が壊れてしまうことになるので、次年度はしっかりと共有する場をもちたい。

報告書記入者 ( 家庭教育支援員 )